



在来種がさらに増加! モニタリング報告 2020



井の頭池では、かいぼりなどの取組によって在来の魚類や甲殻類の生息数が増加してきた。これらの水生生物は、張網やカゴワナを用いたモニタリングを行い、種類や数を確認している。2020年の水生生物の調査結果を報告する。

ヌカエビが急激に増加

ヌカエビは、水質がよくて水草が豊富な水辺を好みされる小型のエビである。都内では生息地が少なくなっている。井の頭池では他の在来種のエビよりも遅れてかいぼり29の後に増加した。2020年は大幅に増え、カゴワナによるモニタリングでは、10月の1カゴあたりの採捕数は5.6匹だった(図2)。ヌカエビが増加した要因は、ブルーギルなどの外來魚による捕食圧がなくなったことや、すみかなどと一緒に捕食される小型のエビの減少によるものと想定される。



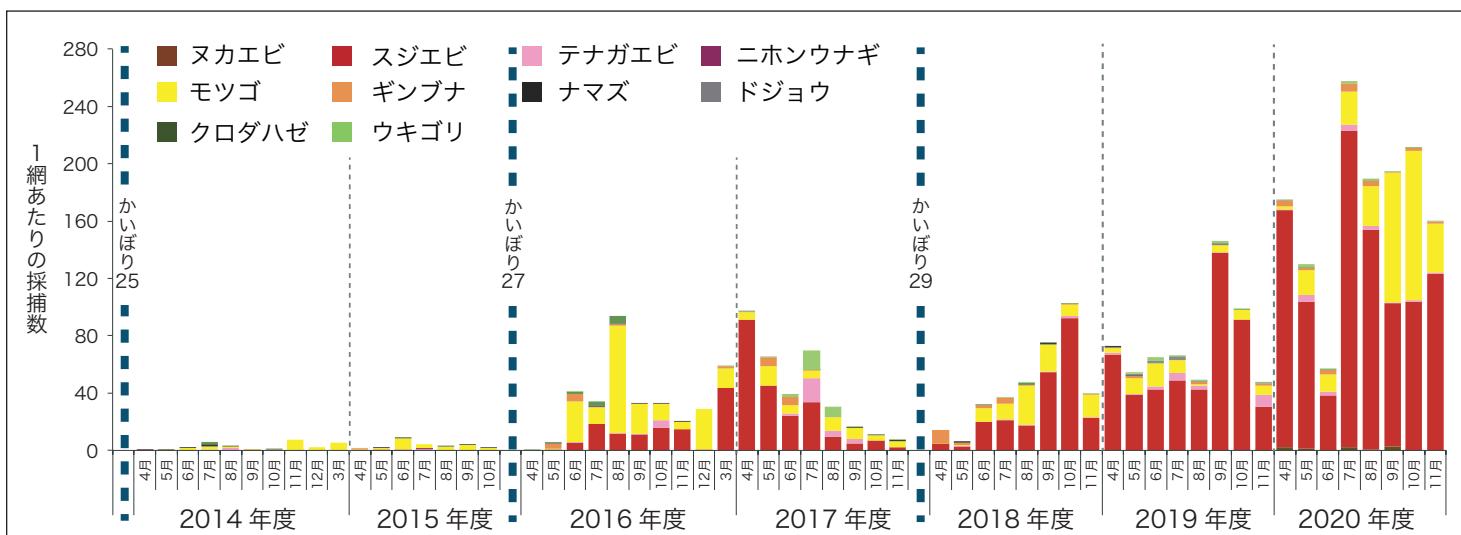
モニタリングでは池に5つの張網を仕掛け、網に入った魚類と甲殻類(エビ・ザリガニ)を種類ごとに記録した。捕れた生物の1網あたりの採捕数を算出し、年ごとの推移を確認した。在来種の結果を図1に示した。

在来種の採捕数は増加傾向にあり、とくにかいぼり27(外来魚オオクチバスを根絶)、かいぼり29(同ブルーギルを根絶)の後に大幅に増えたことがわかる。2020年はさらに増加した。種類ではスジエビとモツゴが優占し、ギンブナ、テナガエビもよく捕れている。

これらの水生生物の増加は、ナマズのような大型種や、水鳥の食物環境の好転にもつながっている。

在来種が増加傾向

図1. 張網による在来生物の1網あたりの採捕数の推移



外来種に増加の兆し

外来種は、2014年には11種が確認されているが、防除活動を行つたことによつて4種に減少している。近年は張網1網あたりの採捕数が低く推移しているが、2019年からは増加の兆しもある。

直近5年間のアメリカザリガニ防除用カゴワナによる採捕結果を図3に示した。1カゴあたりの採捕数が再び増加している。防除方法等を適宜修正しながら対策を継続していく必要がある。

図2. カゴワナによるヌカエビの1カゴあたりの採捕数の推移

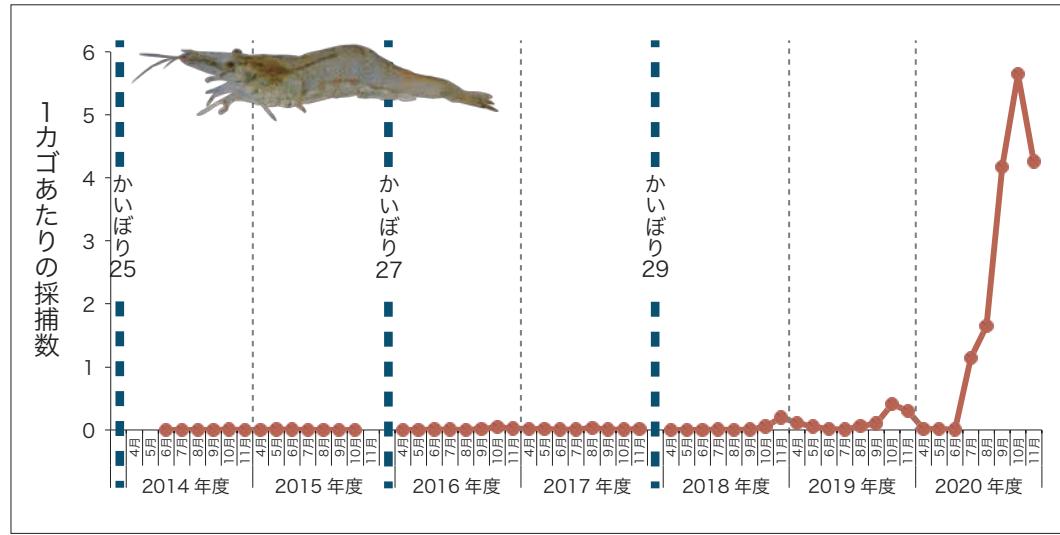
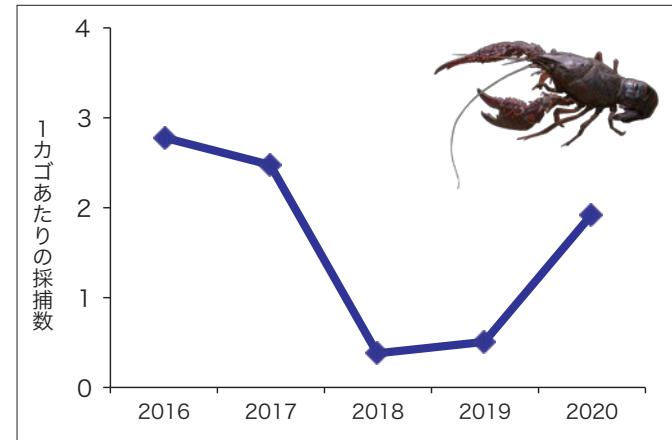


図3. アメリカザリガニの1カゴあたりの採捕数の推移



今イチオシ！自然情報



浅場で産卵！アズマヒキガエル

2月～3月頃、井の頭池の浅場にやってきて産卵し、再び林へ帰っていきます。4月には幼生（オタマジャクシ）が見られるかも！



(左) 浸透地の泥上げ

(右) 泥水が流れ込む様子

井の頭池 ヒヨコヒ ヴォリキニア

動画配信のお知らせ

緊急事態宣言発出にともない、新型コロナウイルス感染防止の観点から現地開催を取りやめ、動画でご案内します。



井の頭恩賜公園公式ホームページ
から見られます

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/jimusho/seibuk/inokashira/index.html>

井の頭恩賜公園 公式

検索